

参考資料議題 1 - 2

放課後子どもプラン推進委員会 視察を終えての感想等

視察日 令和2年2月27日（木）

【大山口小学校放課後子ども教室について】

- ・高齢者のサポーターがやりがいを感じて地域の子供と接する機会になっている事は良いと思う
- ・子供の人数に対し大人的人数が多すぎるので各回の大人人数は調整が必要
- ・対象を1年生だけでなく、全学年を対象として欲しい
(学童保育所に所属する児童が参加したい様子で見に来ていた)
- ・イベント等に関しては「おやじの会」など団体と協力しても良いのではないか
- ・子ども達も楽しそうに取り組んでおり、とても充実した時間を過ごすことができていると感じました
- ・見守りの大人が児童数とほぼ同数おり、放課後児童クラブや他自治体の放課後子ども教室と比較すると配置人数が非常に多い印象でした
- ・児童の方面別の送りまでを行っているということで、スクールガードの役割も担っているように感じました
- ・支払い金額を含む運営費については気にかかる場所ですが、多くの大人が見守りされていることは、保護者にとっては大きな安心材料だと思います
- ・このように楽しく学び、安全に活動できる企画が続けば、放課後の居場所として大変有効であると感じました
- ・児童 21 人に対して、毎回コーディネーター3 人+安全管理員（サポーター16 人が配置されていること、また、生涯学習課職員が準備等に携わっていることや、生涯学習課の備品を使用していることなど、市の協力体制、関与が深いと感じた
- ・費用対効果の視点等を考慮すると市とコーディネーター、安全管理員との役割分担等をより明確にしていく必要があると考えます
- ・子どもたちが楽しそうに手際よく（前にもやったことがあると話してくれた）活動していた
- ・ボランティアの方々も、子どもに話しかけ、褒めたり励ましたりしていて、良い関係が築けているなど感じた
- ・多くの方々が協力してくださっており、たいへんありがたく、また心強く感じた
- ・1年生だけとせざるを得ないと伺ったが、2年生までは需要はあるのだろうと思われる
- ・拡充とメニューの充実が図れると素晴らしいのだが

【白井第二小学校放課後子ども教室（なかよし教室）について】

- ・異年齢との交流、地域団体との交流をもてる機会になっていて良かった
- ・連絡帳は丁寧だがそれにかかる人手や時間がかかっているように感じた
- ・保護者の送迎であればホワイトボード等を活用したり、保護者と直接話す形で良いのではないかと
- ・職員の声掛けや明確な活動内容があることで、児童も集中して取り組んでいるように感じました
- ・子ども教室の物品を置くスペースも決まっており、学校との連携が図れていると感じました
- ・とても落ち着いた雰囲気でしたが、開催回数や児童数が増えた場合には、また違った対応が求められると思います
- ・女子児童が多いためか、全体として静かに活動していた
- ・年間を通して季節に合った活動が行われており、子ども達にとっては幅広い体験が出来るので良い企画が組まれていた
- ・その日の活動内容が記録される「連絡ノート」を直接手渡しする取り組みは、保護者の安心や保護者とコーディネータとのコミュニケーションや信頼関係を築く上で良い取り組みであると感じました
- ・年長の子どもが年下の子どもにアドバイスしたり、折り紙の折り方を教えたりしている姿が見られ、異年齢集団ならではの活動が実現されていた
- ・スタッフの方々の御苦労に頭が下がった
- ・一人一人の様子を連絡帳に書いておられた。書くだけでかなり時間が取られてしまっていたのは残念に思われた。子どもたちが家庭で親に今日の活動について話すように促し、親にノートに書いてもらって点検し、必要があればコメントする形でもいいかなと考えた。その分親子の会話の機会が増えることでもあるし。何よりスタッフの方々の負担が大きいように感じられたので

【全体をとおして】

- ・放課後の子供たちの居場所作り、様々な経験をできる場となって欲しい
- ・全体的にボランティアまかせになっている、少なくともコーディネーターはある程度の知識や経験のある人についてもらいたい
- ・今の人数や規模で続けていきたいのかどうか、人数が増えた時のやり方も考えていく必要がある
- ・児童数に対する配置職員数の基準が必要かと思えます
- ・「地域連携」を配置職員の在り方（地域ボランティアなどの活用）と捉えるのか、配置職員とは別の在り方（地域で活躍される講師の招待、地域施設への児童のボランティアなど）と捉えるのか、白井市として一定の方向性を検討する必要

があると感じました

・大山口小学校と白井第二小学校では、放課後子ども教室に通う対象児童の学年や活動日が異なるほか、携わるコーディネーターや保護者、市との関与などにおいてもそれぞれ異なることが分かりました

・誰が、どんなことを、いつ、子どもたちに教えたり話したりできるのか、人材バンクを作って市が掌握し、講師の方に巡回していただく形ができれば、今後のこの事業の拡充・拡大に繋がっていくと思われる